

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取西高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成31年4月26日
------	---------	-----	------------

1 学校目標	
「深い学び」「幅広い学び」による高い進路目標の実現 ～探究的な学びの充実と高大接続改革への対応～	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>1 学校目標達成のための平成30年度重点目標</p> <p>○高大接続改革に対応した高い進路目標を実現するための施策充実</p> <p>○学問の奥深さに触れる探究的な授業の研究・実践</p> <p>○幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を涵養する取る組の充実</p> <p>○知的総合力を備えた鳥西グローバル・リーダーの育成</p> <p>〈数値目標〉</p> <p>○大学合格者数 国公立大学230名、難関10大学・医学科60名（学年生徒数280名）</p> <p>○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力として CEFR のB1～B2レベルの生徒の割合15%</p>	<p>1 平成30年度重点目標の成果</p> <p>○入試問題を教科で研究するとともに、各学年における目標設定をする際の一助とし、生徒の能力を引き出す授業の在り方について研究した。また、教科・科目横断的な指導の研究を進め、実際に公開授業でも取り入れるなどして実践を重ねた。</p> <p>○多くの教科で対話・探究型学習を実施したり、生徒自身で課題解決させる授業をしたりして、物事を深く考える授業を行った。「学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まった」生徒の割合（アンケート）は81%であり、成果が上がってきている。</p> <p>○教科学習や図書館活動において、芸術文化活動に積極的に取組んだ。また、全教科でグループ学習の機会を確保して言語活動の充実を図り、学びや気づきを促す活動を実践する中で、他者と積極的にかかわる人間関係作りを進めた。</p> <p>○SGH事業の「思索と表現」や海外交流、校内外の各種行事など多様な活動への参加を通して、グローバル・リーダーとしての資質が育ってきている。</p> <p>〈数値結果〉</p> <p>○平成30年度合格者数 国公立大学 215名（達成率93%） 難関10大学・医学科 45名（達成率75%）</p> <p>○平成30年度実績 CEFR のB1～B2レベルの生徒の割合：22名（学年生徒数280名）7.9%（平成29年度実績6.9%）</p>

3 実施事業

【高等学校課事業】

○21世紀型能力を育むための講師派遣事業

①協同的・探究的な学習をテーマにした校内授業研究会

本校SGH成果発表会（平成30年11月8日開催）に岩見理華氏（神戸大学附属中等教育学校）を招き、神戸大学附属中等教育学校におけるSGHの取組（課題研究）について、ご講演をいただいた。生徒の探究活動の深化とその評価について実践事例を通して、本校の「思索と表現」の取組やその評価方法の改善に向けて多くのヒントを得ることができた。

②英語ディベート活動に関する教職員研修会

本校英語科授業研究会（平成30年11月29日開催）に津久井貴之氏（お茶の水女子大学附属高等学校）を招き、本校が取組んでいる「協同学習・探究学習」を深化させることを目的として、アクティブラーニングについて研究を深めた。講師による師範授業は、生徒の主体的な言語活動と授業者の適宜適切な指導など、今、求められている4技能を統合した実践的な英語力の育成について示唆に富んだ内容であった。本校の授業改善にとって示唆に富んだ研究会となった。

○鳥取県版キャリア教育推進事業

①進路講演会「大学生に聞く」の開催

平成31年2月13日に本校卒業生3名（東京大学在学）を招き、「大学生に聞く」講演会を開催した。大学生生活や東京大学の良いところ、目指したきっかけ、高校生時代のことなどについての話を聞いたり、生徒が普段疑問に思っていることを直接先輩に質問し答えてもらう活動などを通して、改めて難関大を目指す意識が高まった。

【独自事業】

○特徴的な取り組み

①教科における探究的な授業の研究

各教科で対話的・探究的な授業が浸透しつつある。また、図書館との連携も進み、主体的な学びを促す授業実践が積みあがってきている。さらに、「思索と表現」をはじめとしたSGH事業への取組により、互いに議論し、解決方法を提案しようとする姿勢が見られるようになった。

②CLIL的アプローチ事業の推進

英語と他教科の内容と統合した授業等により、実践的な英語運用能力の育成につながっている。また、高大接続改革（大学入試改革）に対応した総合的な英語力を育成する授業の研究に深まりが見られる。

③キャリア学習の推進

・キャリアセミナー

予備校講師を招いて学年別進路講演会を開催した。進路指導のあり方について保護者の関心が高まるとともに、大学入試改革に対する保護者の理解が深まった。

・ハイレベルセミナー

東京大学の研究者及び大学院生2名を招き、物流や電力供給、AIなどに関する学問の魅力や研究の最前線を学んだ。生徒たちにとって質の高い知的刺激となり、将来の種となるような貴重な機会となった。

4 総合所見（成果・評価）

教科の面白さを伝える授業、知的好奇心を刺激する授業など「深い学び」について、研究・実践が深まった。その結果、生徒に分析力・考察力が育ちつつあり、互いに議論し、解決方法を提案しようとする姿勢が見られるようになった。また、SGH事業の取組や各種大会への参加など「幅広い学び」の推進により、高校模擬国連国際大会への出場、国際生物学オリンピックへの出場などの成果が表れている。このような取組を通して、知的総合力を身につけた生徒が高い進路目標を実現している。今後、さらにこれらの取組を充実・発展させるための予算措置をお願いしたい。